

東北教区報 2023年1月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <http://nssk-tohoku.com/>

先月行われた教区会において、新庄聖マルコ教会、鶴岡聖公会、室根聖ナタナエル教会の他教会との合併に関する議案が可決されました。このことは、霊的にはこれらの教会が合併先の教会とともに歩み始めることであり、決して消滅ではないと理解されています。私事になりますが、鶴岡聖公会には1994年から2000年までの6年間奉職させていただきましたので、特別な思いが募ります。当時私どもの子どもたちが幼い頃だったこともあり、冬の大雪の中にあっても、また信徒の皆さんと和気あいあいとして過ごして、楽しい思い出で溢れています。ある年のクリスマスには、子どもたちも含めて皆でお友だちや知人を招待し、礼拝堂が一杯になるほど賑やかになったこともありました。思いがけず多くの人々で溢れ、祝会の食事が間に合わず、慌てたこと

クリスマス メッセージ
心に花咲く クリスマス
～越冬つばめとなった教会～

司祭 ヤコブ 林 国秀



もありました。1995年の阪神淡路大震災の時には、当時教会で扱っていた庄内特産の漬物「しなべきゅうり」を被災地に届ける運動なども行なわれました。また、仙台基督教教会聖歌隊の訪問など、どれも懐かしい出来事です。また、新庄聖マルコ教会に

このような思いの募る中、先日歌手の森昌子さんの歌う「ヒュリリ、ヒュリリラ」が心に残る「越冬つばめ」を作詞された石原信一さんの講演を聴く機会が与えられました。石原さんは会津の出身で、長く東京在住ですが、ずっと若松諸聖徒教会の信徒で、母上は若松聖愛幼稚園の先生でいらした方です。その中で「越冬つばめ」の制作秘話を紹介され、越冬つばめは、実際に見たことはないが「生れ育った会津の家のことたつの中にいました。」と語られました。それは、幼い頃母親が読んでくれた「幸福の王子」(アイルランド出身のオスカー・ワイルド

作)に登場する「つばめ」というのです。「幸福の王子」のお話は、とある町の中心部の高く立つ塔の上に、若くして亡くなり、しかも不思議なことに自我を持った王子の像が立っていて、あちこちを飛び回って様々な話をしてくれるつばめと共に、苦労や悲しみの中にある人々のために像に飾られている宝石や体を覆っている金箔を分け与え、みすばらしい姿になっていくお話です。つばめは一刻も早く南に渡らなければならぬのに、王子像と運命を共にする覚悟を決め、王子に仕えます。王子は宝石でできた目さえも差し出し、つばめもとうとう像の足元で力尽きます。その後、像は何も知らない人々によって溶かされ、像の鉛の心臓とつばめの死骸だけが残ります。天国では、地上の様子を見ていた神が、天使に「この街で最も尊いものを二つ持ってきたさい」と命じ、遣わします。天使はゴミの中から王子の鉛の心臓と、つばめの死骸を取り上げて献げ、神は天使を褒めたという話です。

クリスマスを迎える時、越冬つばめの姿と天上にさざけられた教会が重ね合わせられ、私のしほめる心に、ようやく一輪の花が咲くのを覚えましました。心から皆さまにクリスマスのお祝いを申し上げます。(郡山聖ペテロ聖パウロ教会 牧師)

日本聖公会東北教区

第107(定期)教区会 報告

11月23日(水) 於 盛岡

日本聖公会第107(定期)教区会が11月23日(水)に盛岡聖公会並びにアートホテル盛岡で開催されました。盛岡での定期教区会開催は今回で3年連続となりました。昨年は諸事情のため欠席の信徒代議員が多かったのですが今年は欠席が3教会でした。欠席の3教会もやむを得ない状況によるもので、今年は皆さんが教区会に参加してそれぞれの責務を果たして下さいました。

2020年以降3年続けてコロナ禍での教区会というところで今会期も一日で礼拝・報告・研修・選挙・議案審議を行う大変タイトなスケジュールとなりましたが、皆さんのご協力によって予定通りの日程で行うことが出来ました。開会礼拝の信施は、友好協力関係にある大韓聖公会テジョン教区主教座聖堂建築のために捧げられました。

諸報告の後、昼食の前に短い時間ではありましたが「教区と各教会の法人格一元化の課題」についての研修が行われ、浅原総務主事より説明がありました。「法人格の一元化」は田崎安男主教時代から続く長年の懸案でありますが、各教会の諸事情のためなかなか進捗してきませんでした。しかし、今後の宣教協働区の歩みを進めていくためには解決していかなければならない重要な課題です。

議案審議においては、26の議案が上程されました。この紙面ですべての議案について紹介することは出来ませんが、いくつかお知らせします。一つは、鶴岡聖公会と新庄聖マルコ教会、室根聖ナタナエル教会それぞれの合併に関する議案についてです。審議の結果、鶴岡聖公会と新庄聖マルコ教会は山形聖ペテロ教会と合併し、室根聖ナタナエル教会は盛岡聖公会と合併することになりました。また、室根聖ナタナエル教会は「室根聖ナタナエル伝道所」が設立され宣教主事のもとに置かれた「室根山麓施設活用プロジェクト」を中心に歩みだすことになりました。新庄と鶴岡の教会がなくなるのは寂しいことですが、山形と合併した新たな道を主が祝福してくださることを信じて希望を持って歩んでいきたいと思えます。

二つ目は、「東北教区・北海道教区宣教協働タスクフォース設置の件」です。この議案は、22日・23日に開催された北海道教区の教区会でも同じ内容で提出されました。タスクフォースとは特定の目的を果たすために一時的に編成される組織で、ここでは両教区の宣教協働ならびに教区再編へ向けて動き出すための道筋(ロードマップ)を策定する目的があります。期間は1年間で教区再編のための課題とヴィジョンを明確にしていく使命があります。大変重要な議案でしたが、議場での質疑応答・意見交換の後、満場一致で可決承認されました。

選挙結果

教区会の最後に動議が提出され、来年3月31日で定年退職を迎えられる第8代教区主教ヨハネ吉田雅人主教へ感謝の意を表し、花束が贈呈されました。

(宣教主事)

司祭 ステパノ 越山 哲也

常置委員

司祭 長谷川 清純

司祭 八木 正言

司祭 渡部 拓

赤坂 有司(仙台基督教会)

坂水 かよ(盛岡聖公会)

畠山 秀文(弘前昇天教会)

主教告示

主教 ヨハネ 吉田 雅人

本日、ここに東北教区第107(定期)教区会を開催できますことを、主なる神様に感謝いたします。またこの教区会のためにお集まりくださいました、聖職議員・信徒代議員の皆様、また教区諸役員の皆さま、関係諸団体の皆様、補助書記の皆さまにも感謝申し上げます。今年は去る11月3日にも次期教区主教選挙の



ための臨時教区会がありましたので、短い期間のうちに2回もお集まりいただき、重ねて感謝申し上げます。

コロナ禍における教会活動

2020年にまん延が始まった新型コロナウイルス感染症は、丸3年間続いています。昨年の教区会が開かれた11月には東北六県で感染者が56人まで減少し、これからは通常の教会活動に戻れそうだと期待しておりましたが、今年の1月からの第6波によって、教区内の11教会が約1ヵ月間、全員で献げる主日礼拝を休止せざるを得なくなりました。また8月には第7波によって、東北六県で感染者が約32万人にもなり、その結果、計画されていた教区の諸活動、



中でも、青年キャンプや教区修養会が中止せざるを得なくなりしました。教区としても「主日礼拝ならびに教区宣教活動のための指針 No.9」を出し、各教会の置かれた地域の実情にあわせて活動していただくようお願いしているところです。

そして今は第8波が始まっているようですので、徐々にコロナに慣れてきている向きもありますが、引き続き注意を払いながら教会生活を続けていきたいと思います。

そのようなことで、聖職の皆さんも、信徒訪問、ことに病院・施設等におられる方の訪問、病床聖餐などもままならず、辛い思いをしておられると思います。どうぞ、様々な方法で信徒も聖職も連絡を

取り合い、孤立する方が出ないようにご配慮をお願いいたします。

またコロナではありませんが、今年3月16日に発生した福島県沖地震では、福島県と宮城県内の教会・幼稚園にも大きな被害が出ました。詳細は総務主事報告等にも記されておりますが、管区と協力して復旧に当たっているところです。教会関係のみならず、被害に遭われた方々の上に、神様の慰藉と導きをお祈りしたいと思います。

人事

次に人事につきましましては、2014年より宣教協働者として当教区に出向してきておられたヨハネ八木 正言司祭が、本年4月1日より東京教区から当教区に転籍してくださいました。これからもよろしくお願いいたします。また2021年4月から嘱託司祭として小名浜聖テモテ教会でご奉仕くださっているパウロ松本 正俊司祭は、来年3月末をもちまして、その任を終えられる予定です。少し早いです。松本司祭様の2年間

のお働きに深く感謝申し上げます。また礼拝協力として各地の教会でご奉仕ただいていらっしゃる、ヨハネ 佐藤 忠男 主教様、ヨハネ 加藤 博道 主教様のお働きとお支えに、深く感謝申し上げます。

新庄聖マルコ教会と鶴岡聖公会

新庄聖マルコ教会と鶴岡聖公会は、いずれも信徒の高齢化が進み、信徒数も憲法法規に定める「教会」としての要件を満たすかどうか、というところまでになっています。

結果として教会活動の維持および礼拝堂や関連施設の維持が、極めて困難になりました。その現状に鑑み、新庄聖マルコ教会と鶴岡聖公会は山形聖ペテロ教会に合併することを、各々の教会の堅信受領者総会で決議し、関連する議案が今教区会に提出されております。

教会が合併した場合には、同じく議案として提出されております、盛岡聖公会と合併する室根聖ナタエル教会のように、伝道所として存続する方法もありますが、新庄聖マルコ教会と鶴岡聖公会は、先にも述べましたようにい

れも礼拝堂等の建物の老朽化が進んでおり、防犯上の面からも解体撤去する方向で考えています。

新庄では1906年から16年間、鶴岡では1913年から1909年間、諸先輩のお働きによってそれぞれ宣教活動が行われてきたわけで、その宣教拠点を閉じていくというのはとても辛く、申し訳なく思います。しかしそれぞれの地に信徒の皆さんが一人もいなくなったわけではなく、また、教会とは建物のことではなく主にある交わり、共同体なのですから、新庄、鶴岡の地におられる信徒の方々への丁寧な牧会活動を、その方々との礼拝による交わりを通して、今後も続けていくことが大切だということを、心に刻みたいと思います。

コラボレーション、北海道教区と宣教協働区

2020年の日本聖公会総会で、日本聖公会は宣教体制再編に向けて、「宣教協働区と伝道教区制」を採用しました。そして私たちの属する東日本宣教協働区は、日本の面積の



ほぼ半分近くを占める関係上、南の東京教区・北関東教区と、北の東北教区・北海道教区の二つに分かれて具体的な協議を進めています。

そのような中で、私たち東北教区は北海道教区と宣教協働と教区再編に取り組み、将来的には一つになっていくことを目指しています。その視点に立って昨年、北海道教区が笹森田鶴主教様を選出したように、東北教区でも先の11月3日の臨時教区会で、次期教区主教として長谷川清純司祭を選出しました。

そして今まで4回の両教区合同常置委員懇談会を経て、これらのことを具体化するためのタスクフォースを設置する議案が、本で行われている両教区の教区会に、全く同じ内

容で提案されています。北海道教区は1874年に伝道が開始されてから148年が、東北教区は1891年に伝道が開始されてから131年が経ち、様々な点で違いもありますが、同じ主に従って歩み、神様と人々に仕えていく共同体として、喜びも困難もともにする信仰の旅路を歩んでいくことを願ってやみません。

このように、さまざまな相

違を超えて共に信仰の旅路を歩むことは、教区内の各教会会における信徒・聖職の間でも同じです。執行機関の各グループ同士のコラボレーションだけではなく、県境や藩境を乗り越えて、近隣の教会同士で各々の強みや弱点を分かち合い、助け合い、支えあうコラボレーションを進めていただきます。と思います。

また来年の11月には山梨県
の清里・清泉寮を会場に「宣
教協議会」が開催されること
になっています。テーマは、
「いのち、尊厳限りないもの
〜となりびととなるために
〜」で、教区主教と宣教担当
者かその代理者に加えて、
ジェンダー・年齢バランスを

考慮した6名の信徒・聖職が参加することになっています。私たちの教区からはこの8名に加えて、宣教協議会実行委員の越山哲也司祭と赤坂聖矢君が参加することになっています。協議会に向けての事前準備を含め、協議会での実りを教区内で分かち合い、教区の宣教活動がより活発になりますことを期待してやみませ

宗教法人一元化

今、述べましたように、私たちがこれから北海道教区との宣教協働と教区再編に取り組んでいくにあたって、来年度の教区の課題にしていきたいことがあります。それは1979年の教区会で、当時の田崎安男主教様が勧告され、加藤博道主教様も2003年の教区会主教告示の中で勧告された、教区と各教会の法人格一元化の課題であります。現在、東北教区内では、田崎主教様のお勧めに依えて、仙台基督教会、弘前昇天教会、鶴岡聖公会が教区と一元化を果たし、昨年の教区会では室根聖ナタナル教会が一元化

いたしました。けれども、今回議案として出されている新庄聖マルコ教会を除く15の教会が、独立した宗教法人格をもっているのが現状です。片や、北海道教会はすでに全教会が一元化しており、今後の北海道教会との協働の歩みを考えますと、私たちの教区の課題として、また各教会の課題として、今年度はこの問題に取り組んでいただきたいと思います。

これについては様々な疑問や、分からないことがあるかもしれませんが、このあとの常置委員会報告に続いての、総務主事からの説明や、ミニ研修を通して理解を深めていただくことを望んでやみません。

終わりに

最後になりましたが、一般財団法人白石庵敬神会には、主として東北教区の公益的な事業である「幼児教育事業」に対して多大なる援助とお支えをいただいておりますことを、心より感謝申し上げます。また東北教区婦人会の働き、東北教区にとっては宣教の協

働者である東北教区保育連盟とその加盟園の働きにも感謝申し上げます。また本日はこの場におられませんが、礼拝協力をしてくださったっているヨハネ佐藤忠雄主教様とヨハネ加藤博道主教様、東北教区婦人会長のマーガレット梅津庸子さんにも、心より感謝申し上げます。

影山博美司祭、アタナシウス
佐々木康一郎執事、オーガス
チン戸枝正樹聖職候補生を神
様のみもとにお見送りするこ
とになったことも、この地に
来ていなければできなかった
ことでした。

このような様々のお恵みを
いただきつつも、これまで主
教としてできなかったことや

そして、今教会会にご出席
いただいた、小名浜聖テモテ
教会囑託司祭のパウロ松本正
俊司祭様、東北教区保育連盟
会長のアイリーン坂水かよさ
ん、一般財団法人白石庵敬神
会代表理事のバルナバ赤坂有
司さんをご紹介します。

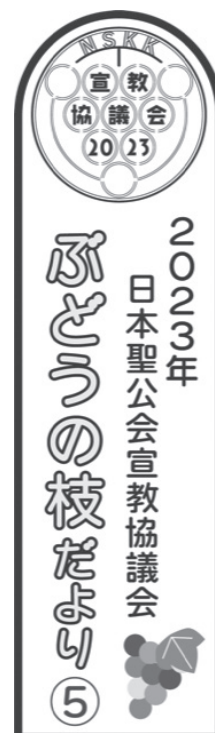
皆様のご期待に沿えなかったこと、意図せずお心を傷つけてしまったこともあったのではないかと思います。それらのことをお詫びしつつ、退職までの4か月余、皆様のお祈りのうちに、教区主教として最後まで務めを全うしたいと

さて、私は来年3月末日を

願っています。

もって定年退職となります。
2017年11月30日、使徒聖
アンデレ日に主教職に聖別さ
れ、東北教区主教に就任して
から今日までの5年間、短い
期間ではありましたが、この
東北の地で多くの信徒・聖職
の方々との出会い、たくさん
のお恵みをいただいたことを深
く感謝いたします。ことにコ
ルネリオ斎藤雄一司祭、アタ
ナシオ笹森伸児司祭、サムエ
ル秋山久之司祭、アントニオ

来年4月、東北教区は新しい主教を迎えることになりま
す。新しい牧者のもと、東北
教区がますます主の御栄光を
現し、イエス様に従って神様
とこの世界の人々に仕えてい
く共同体に成長していけまし
ようお祈りいたします。そし
てそれぞれの教会の上に、ま
た信徒・聖職の皆さまの上に
神様の豊かなお守りとお導き
がありますようお祈りいたし
ます。



これまでの 「ぶどうの枝分科会」について

来年の11月に開催される宣教協議会は、当初は今年の11月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染状況の影響により、やむなく一年延期することになりました。しかし、ただ単に延期するのではなく、宣教協議会までの期間をより有意義な時間とするために、日本聖公会に連なるさまざまな団体と実行委員会とが分科会を行い、分かち合いの時を持つことが提案されました。この分科会は「ぶどうの枝分科会」と名付けられました。この分科会を宣教協議会のプロセスの一部として位置づけ、定期的に開催することになりました。

第1回目の分科会（管区諸委員会編）は、今年の2月25日・3月4日に開催されました。管区諸委員会の代表者の

皆さんをお招きしました。各委員会へのアンケートの回答をもとに報告があり、その後意見交換の時を持ちました。各委員会のこの10年の働きの恵みと、現在の取り組み、課題について分かち合いました。それぞれの委員会の多様な働きが、すべてイエス様につながっていることに感銘を受けました。

第2回目の分科会（青年委員・青年担当者編）は、5月9日・15日に開催されました。管区の青年委員と各教区の青年担当者をお呼びしました。日本聖公会の中での青年たちやその活動について思いを分かち合い、各教区の青年活動の恵みや課題、青年たちの主体性といったことについて話し合われました。宣教協議会においても、青年たちを「お手伝いさん」として扱うのではなく、これからの聖公会を担う存在として接

することの大切さが共有されました。

第3回目の分科会（原発問題プロジェクト編）は、6月9日に開催されました。管区原発問題プロジェクトのメンバーをお招きしました。まず、プロジェクト委員長長の長谷川清純司祭から「この10年の恵みと課題」と題するお話、プロジェクトメンバーの池住圭さんから「原発と核の問題」と聖公会宣教課題について」と題するお話があり、その後意見交換がなされました。この分科会を通して、原発や核の問題は東日本大震災から10年を経てもなお現在の問題であることを強く感じさせられました。

「ぶどうの枝分科会」は、今後も続けられる予定です。来年の宣教協議会に向け、これから多くの「ぶどうの枝」の皆さんと恵みや課題を分かち合えればと願っています。



↑
宣教協議会プロジェクトの
スクリーンショットはこちら

常置委員会報告

(第13回・11月11日)

◆主教報告

米国聖公会ルイジアナ教区主教按手式へ送るメッセージについて報告。

◆常置委員長報告

第106(臨時)教区会・教区主教選挙の結果、東日本大震災余震被害修復工事費用への支援金について報告。

◆協議事項

(1) 第107(定期)教区会議案関連事項について「室根聖ナタナエル伝道所」設立議案の追加を承認。

(2) 第107(定期)教区会における研修会について…30分程度で「各宗教法人の解散と教区への合併」に関する報告を総務主事と協力して行い、質疑・応答を受ける形の研修会を実施することを承認。

(3) 第107(定期)教区会において常置委員会関連議案への質問対応について…質問事項への対応を協議、それぞれの回答内容を確認し承認。

(4) その他…次期教区会期常置委員会へ引き継ぐべき内容を確認。

常置委員会報告

(第1回・11月23日)

◆協議事項

(1) 常置委員長の互選について…主教が仮議長となり、第107(定期)教区会で選出された常置委員で委員長を互選した結果、赤坂有司委員を選出、全員一致で決定した。

(2) 書記の選出…常置委員長となった赤坂有司委員が議長となり書記を選出した結果、渡部拓司祭を書記に選出、全員一致で決定した。

フランスス長谷川清純司祭 主教被選者となりました

11月3日(木)の教区主教選挙において当選されたフランスス長谷川清純司祭は、選挙後の首座主教への報告・各教区主教からの同意を経て、11月23日(水)教区会後、主教就任を受諾されました。

これにより、フランスス長谷川清純司祭は東北教区の主教被選者となりました。同司祭と教区のこれからの歩みのためにお祈りください。



釜石神愛幼児学園

園長 カタリナ 高橋 仁美

釜石神愛幼児学園は東北教区で唯一の社会福祉法人の保育所です。0歳から就学前の子どもたち50名が毎日元気に通ってきます。

保育方針はキリスト教精神に基づき、神様に愛され、人を愛する子どもを育てることです。ホームページのトップには「神様の愛がいっぱい、心も体も健やかに。子どもの頃にしかできない体験と一緒にいっぱいしましょう。」とアピールしています。園歌「釜石の天使」の2番には「どんなときにもイエスさまいっしょ、ちからのかぎりささえあう」とあります。子どもた

ちは鼻歌交じりに園歌を歌いながら、走ってはいけません、と言われている廊下を毎日元気に走り回っています。

保育園は日曜祝日と年末年始以外、夏休み冬休みもありませんので、1年があつという間に経ってしまいます。

今年の春、盛岡から転園してきた子どもの保護者から、キリスト教保育という一本の柱があることが安心で入園を希望しました、と面接時に言われた時は心の中でガッツポーズをしてしまいました。釜石の地で創設者の藤村先生からの願いが繋がっていることを体感し、とても嬉しく思った日でした。

毎朝のお祈りは、入園して数カ月もすると0歳児でも手を合わせ待つことができるようになり、偉いなぁと感動して観ています。私が園長になりたての頃、緊張しながら子どもたちの前でお話をしましたが、礼拝後に年長児の一人から「何回も練習することが大切だね、頑張つて。」と言われたことを懐かしく思い出します。今も練習は続いています。

11月の幼児祝福式ではチャレンの越山哲也司祭様から一人ひとり祝福していただきましたが、0歳児は司祭様の優しい手を振り払おうと泣いてばかりいる姿が微笑ましかったです。

12月のクリスマス礼拝祝会ではステージに登場しただけで十分に可愛い0歳児たちです。司祭様や理事長先生に見守られながら張り切つて演技をする子どもたちの様子が今から目に浮かんできます。私たちも心の備えをしてその日を持ち望みたいと張り切っています。

そして卒園式。今年度は12名が卒園しますが、在園年数は6年が多く、抱っこされて入園してきた子どもたちがこんなに大きく成長したことに、保護者も職員も感動と感謝が溢れ、毎年大泣きしています。



東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

◆11月の地域活動「水曜喫茶」は9日(水)開催、参加者は6名でした。名古屋柳城大学、田園調布カトリック教会、元メンバーから差し入れが届きました。25日(金)開催した第102回「広畑お茶会」は、住民5名とボランティアと計10名の参加でした。次回12月16日(金)が最終回。「お買い物支援バス」は10日、17日、24日の木曜日に運行し、延べ11名の利用でした。

◆2023年3月11日(土)、東日本大震災12周年に、礼拝と講演会を2022年同様にハイブリッド形式で開催する計画です。講演会は主教座聖堂で行い、ライブ配信します。講師は片岡輝美さんです。片岡さんは会津若松市在住、日本基督教団若松栄町教会員。「会津放射能情報センター」代表、「脱被ばく裁判の会」と「これ以上海を汚すな!市民会議」の共同代表、「宗教者が核燃料サイクル事業廃止を求める裁判」原告。

(司祭 長谷川 清純)

米国聖公会ルイジアナ教区 新主教就任



2022年5月14日(土)に米国聖公会ルイジアナ教区主教に選出されておりました、シャノン・ロジャース・ダックワース司祭の、米国聖公会ルイジアナ教区第12代教区主教としての主教按手式・教区主教着座式が、11月19・20日(土・日)にかけて執り行われました。ダックワース主教は、米国聖公会ルイジアナ教区としては初めての女性主教となります。

同教区と東北教区は1935年に、ドレーパー司祭が宣教師として来日し、東北教区への宣教牧会の業に携わられたことから交わりが始まりました。その歴史と退任されたトンプソンJr.前主教にも感謝しつつ、新主教の誕生をお祝い致します。

U26全国集会報告

クリストファー 石澤 優樹

今年度も、9月にU26(ゆーじろー)全国集会に参加しました。

U26の運営も今年で3年目になります。過去3回の集会に参加させて頂き、その影響を受けて運営に携わるようになりましたが、昨年・一昨年と、新型コロナウイルスの影響で、例年行われているような対面での集会が出来ず、思うような運営が出来ずにいました。社会全体が感染防止の自粛ムードのなか、新規感染者や病床使用率の報道にとらめっこしながら、「なんとか開催出来ないか」と、集会の実現に苦慮する運営を余儀なくされました。また自分の仕事の人事異動で仙台を離れたタイミングで運営を始めたのですが、コロナもまた同じタイミングでの流行となつてしまったので、自分としては不運だなと感じております。

今年度はコロナ禍の過去2カ年の反省等々を踏まえ、途中で対面での集会を計画し

ている状態でした。ただ、募集を開始した辺りからまた感染者数が徐々に増え始め、やがては第7波に発展し、まともや断念する形になってしまいました。県をまたぐ移動規制や、緊急事態宣言等も発令されていた訳ではありませんでしたが、開催の決まっていた施設との話し合いや、緊急対応の手段や近隣病院との兼ね合い、その様な決断に至つてしまいました。

対面中止は開催日の2週間前で、既に参加者は決まっていたため、飛行機などのキャ

ンセル費も掛かってしまう中での苦渋の決断となつてしまいました。オンラインという形で開催できました。今回は新規の参加者も多く、大変有意義な集会となり、対面で出来ていたらなと悔いが残りつつも、中止とはならなかった。次は繋げられたのかと思います。

来季以降U26はどうなるのか、世の中に揺さぶられながらも、中にはなると思いますが、参加できる残り2年を大事に楽しく、過していかれたらと思います。(仙台基督教教会信徒)

鍋を囲み交流を深めながら、
未来へ向けて語らいの一時を
持ちましょう！
教会の皆さん、お近くの中高
生にぜひお声がけください！

(※新型コロナウイルス感染症対策を十分にとつて行います。)



久しぶりに 中高生プログラム を開催します！

2023年1月21日(土) 10時～15時

会 場：仙台聖フランシス教会
対 象：12歳以上(青年スタッフも歓迎！)
参加費：300円
申込先：各教会牧師 もしくは
渡部司祭(024-522-5345)まで

主催：青年グループ(旧教育・保育グループ青年部門)

礼拝堂探検隊

礼拝堂にあるいろいろなもの、
その意味を調べてみました。

(第24回 聖所灯)



(聖所灯/八戸聖ルカ教会)

のことで、「聖所灯(サンクチュアリー・ランプ)」と言います。これは一体何のために灯されているのでしょうか。

この灯りはご聖体(聖別されたパン)が保存されているしるしで、十三世紀からの習慣です。ご聖体の保存そのものは古代教会時代から行われており、病氣の方に捧持して聖餐に与らせるためでした。ご聖体を保存する容器をピックスと言います。それは聖櫃(せいひつ・タバナクル)と呼ばれる箱の中に安置されました。

この聖櫃の前に灯りをともす習慣は、英国では一二四〇年にウースター教区のウォー

聖堂に入ると、昼夜を問わず灯っている光があります。

聖卓の上に灯っている赤いランプ

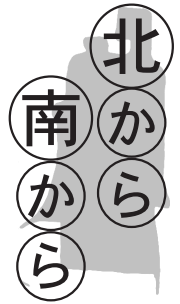
ルター・ド・カンテイル・ブーシが「ご聖体の前では昼も夜もランプが燃えていなければならない」と命じたことによるそうです。

東北教区の多くの教会には聖櫃がありますが、聖櫃そのものがない教会もあります。また聖櫃があっても聖体を保存していない場合もあります。にもかかわらず聖所灯は灯っている…。そもそも聖所灯は、「ご聖体が保存されているから敬意を払いなさい」との注意を促すしるしです。ですから常時ご聖体を保存していない場合には、聖餐式を行う時に点灯し、それ以外は消しておくのも方法かもしれません。

しかし聖所灯に与えられた意味を再解釈することが許されるなら、次のように考えることもできるでしょう。即ち聖所灯が灯っている場合は、「あなたのために与えられた主イエス・キリストの体」を覚えて

て主に感謝する場、主と一つに結ばれる場です。このことを憶えて、主に一步一步近づいていきたいと思えます。

(教区主教)



弘前昇天教会

厳しい冬を前に、聖堂、ホールの暖房設備を新しくしました。

当聖堂は県の重要文化財に指定されているため工事に多くの制約(穴開け、釘使用不可等)がありました。2年越しの検討の末、ようやく実現しました。真冬は零下から時間をかけて暖めていた聖堂も、この冬からは快適に過ごせそうです。感謝です。

室根聖ナタナエル教会

室根聖ナタナエル教会が盛岡聖公会と合併したことにより、信徒の教籍は盛岡聖公会に移籍することになりました。

また、第107(定期)教区会において「室根聖ナタナエル伝道所」の設立が承認されました。今後は「室根山麓施設活用プロジェクト」が設置され、プロジェクトを中心に

に、新たな教区の伝道拠点をとのうに用いていくのかを検討していきたいと思います。

秋田聖救主教会

もともと秋田は風の強い所のように、30年位前には牧師館の屋根が飛んだということがあったと記憶しています。

今年は風も雨も強い日が続き、小礼拝堂入り口にある外に通じる木のドアの隙間から雨が吹き込み、床が水浸しになりました。骨董品なので治すとなると見積もりは高額で、ほとんど使うことはないのので塞いでしまえば簡単なのですが、文化財に指定されているので簡単にはいきません。皆でどうしたものかと思案中です。

米沢聖ヨハネ教会

昨年に比べて2週間遅れて、雪の季節がやってきました。

11月13日に、吉田主教の最後の巡回がありました。お土産用に芋煮を用意しました。管理牧師期間を含めて、心に残る交わりの時をいただき感謝しています。

11月5日、私たちの敬愛するエステル高山すゑさんが103歳の生涯を終えられました。103歳の誕生日にホームに移られ、3ヵ月後のことでした。信徒の大切な柱として、いくつもの集会に積極的に参加されました。「コロナ禍が収まったらお見舞いに伺います」との約束は、果たすことができませんでした。

教会も施設に入られる方が続き、礼拝に出席できる方が減りました。クリスマスは静かに心のこもった祈りを献げることになります。

郡山聖ペテロ聖パウロ教会

去る10月23日に教会敷地内外の環境整備を行いました。

郡山では6月と10月に主に草刈りを中心とした作業を行っています。今回のトピックスとして、これまでは花壇として使っていたスペースを念入りに作業しました。来年からは幼稚園用の畑として使用したいと考えています。冬の期間で土起こしやたい肥を入れての土づくり。信徒の野菜作り名人に教えてもらいながらスタートします。

仙台基督教会

11月20日、子ども祝福式が

2伝道所と合同で行われました。12名の子どもたちが、主様よりお祝いを受けてました。八木司祭は、描いた果物が本物となって飛び出すと動物たちにあげてしまう「よっちゃんクレヨン」物語を通して、「受けるより、与える方が幸い。みんなで分け合うと、楽しくて嬉しいね。」と、み言葉を解りやすくお話しくださいました。

緊張気味の子どもたちを笑顔にかえる、温かい式でした。

永遠の平安

エステル 高山 すゑ

(11月5日・米沢)

1月逝去者記念聖餐式

1月10日(火) 午前10時

於 主教座聖堂

司式 吉田 雅人 主教

説教 (未定)

執事 ヨハネ 福島 政美

2003年1月1日逝去

執事 アナシウス 佐々木 康一郎

2020年1月3日逝去

主のご降誕をお祝いたします



今年もご愛読くださり、
ありがとうございました。
どうぞよきクリスマスを
お迎えください。

広報グループ 一同



司祭	サムエル 秋山 久之
	2020年1月7日逝去
Mrs. Waller	
司祭	1939年1月9日逝去
司祭	ステパノ 宮城 俊彦
	1995年1月13日逝去
司祭	ペテロ 細貝 岩夫
	1985年1月17日逝去
司祭	ER Harrison
	1937年1月19日逝去
司祭	Charles H. Evans
	1955年1月20日逝去
司祭	アンデレ 青木 伊八
	1966年1月31日逝去